



さいたまトリエンナーレ2016 最新情報のお知らせ

12月11日、無事閉幕！ありがとうございました。

Topics

さいたまトリエンナーレ2016閉幕：報道関係者のみなさまへ御礼 & ディレクターよりメッセージ

- 1: [閉幕日レポート:大盛況！ 鈴木桃子「Finale: Untitled Drawing Project 2016」](#)
- 2: [閉幕日レポート:大盛況！ 目《Elemental Detection》とスペシャル・フォトシューティング](#)
- 3: [長島確+やじるしのチームの作品《←》を見逃した方へ。集大成がまだ見られます！](#)
- 4: [「さいたまトリエンナーレ2016公式カタログ」絶賛発売中！](#)

さいたまトリエンナーレ2016閉幕：報道関係者のみなさまへ御礼

さいたまトリエンナーレ2016は12月11日をもって無事に閉幕を迎えることができました。
報道関係者のみなさまには、ご理解ご協力を賜り心より御礼を申し上げます。

さいたまトリエンナーレ2016閉幕：ディレクター芹沢高志より



2016年12月11日、さいたまトリエンナーレ2016が無事終了いたしました。応援してくださったすべての方に深く感謝いたします。今回のトリエンナーレでは国際芸術祭としての強度を保ちつつ、いかに創造のプロセスを地域に開いていくかに腐心いたしました。さいたま市が取り組む初めての国際芸術祭であったため多くの困難もありましたが、文化施設が集中する巨大都市でも、観光地でもない、私たちの日常的な生活の現場における国際芸術祭の、ひとつの形を提示できたのではないかと自負しています。市民サポーターの活動にも驚くべき力が生まれており、これを次のトリエンナーレにつなげていくことこそ、今後の大きな課題と考えております。

さいたまトリエンナーレ2016ディレクター 芹沢高志

■1:閉幕日レポート:大盛況！鈴木桃子「Finale: Untitled Drawing Project 2016」



鈴木桃子《Untitled Drawing Project》| 2016 photo: TOPPAN

市民のみなさんにご提供いただいた素材で制作したコスチュームを纏ってパフォーマンスをした鈴木桃子

無に還っていくプロセスを多くの人が目撃。

会期最終日の14時まで、白い壁面に鉛筆で細密なドローイングを描き続けてきた鈴木桃子。

11月20日以降、鑑賞者は「消す」という制作プロセスに参加してきましたが、深く刻まれたドローイングは残り香のようにうっすらと壁面に残り、まだ形を留めている状況でした。そして、ついに最終日、予定の14時を迎え、「自身の手で作品を“無”に還す」パフォーマンスを行いました。

作家自らがペンキの載ったローラーを大胆にあてると、ドローイングは白い刃物で削られたようにみると分断されていきました。それはまさに、さいたまに生まれ、無に還っていくサイクル(＝形のない宇宙)を感じさせるものでした。

この作品の核心であるプロセスをひと目見ようと、長時間にわたり建物外まで長蛇の列が続き、静かに大勢の観客が訪れてくださいました。

■2: 閉幕日レポート:大盛況！

目《Elemental Detection》と スペシャル・フォトシューティング



目《Elemental Detection》 | 2016年 Photo: Natsumi KINUGASA

想像をはるかに超えたスケールの作品。

鑑賞上の重要なコンセプトを含むため、終盤まで「撮影不可」、また、来場者に口外についても控えていただきたいという願いをしていたこの作品。公式ウェブサイトでも作品写真を掲載することはできませんでした。初めてお披露目するこの写真は、記録として休場日に撮りおろしたものです。これだけで何が起きているのかわかりますか？ 見ているものがすべてではない、ということを改めて考えさせられた、いや、感じさせてくれる作品でした。そのような稀有なスケールの作品に、最終日も多くの方が驚き喜んでいらっしゃいました。その風景を、写真でご報告できないのが本当に残念です。

しかし！ 多くの方がじっくり作品を鑑賞し、楽しまれた証を公式Tumblrページ「みんなのさいたまトリエンナーレ」にてご覧いただけるようになりました！

Elemental Detection スペシャル・フォトシューティングの公開中！！

[公式Tumblrページ「みんなのさいたまトリエンナーレ」](https://saitamatriennale.tumblr.com) <https://saitamatriennale.tumblr.com>

12月15日(木)より、[#みんなのさいトリ](#)で検索いただくと、多くの方が撮影されたすべての目の作品写真がご覧になれます。

■3: 長島確+やじるしのチームの作品《←》を見逃した方へ。
集大成がまだ見られます！



長島確+やじるしのチーム《←》から | 2016年 photo: Kazue KAWASE

近所の人々が集まって作った←たち

参加者自らが作ったやじるしを、趣向を凝らした展示で見せるプロジェクト、そのユニークさが鑑賞者を魅了しました。

この作品は太田省吾の戯曲「↑(やじるし)」(1994)シリーズにインスパイアされ、構想されました。参加者自らが、街行く人々を“未来の発見”へ誘うやじるしを作り、市内に展示。すべての←を撮影し、“さいたまのやじるしをめぐる物語”として大宮タカシマヤの階段状ギャラリーに展示公開してきました。さいたまトリエンナーレ2016は閉幕しましたが、12月12日(月)～23日(金・祝)の間、大宮タカシマヤのご協力により開催している、長島確+やじるしのチーム主催の展覧会において、《←》作品をご覧ください。

《←》

大宮タカシマヤ ローズギャラリー(6F～8F)

展示期間: 12月12日(月)～12月23日(金・祝)まで

鑑賞時間: 10:00～19:00

主催: 長島確+やじるしのチーム

■4:「さいたまトリエンナーレ2016公式カタログ」絶賛発売中！！

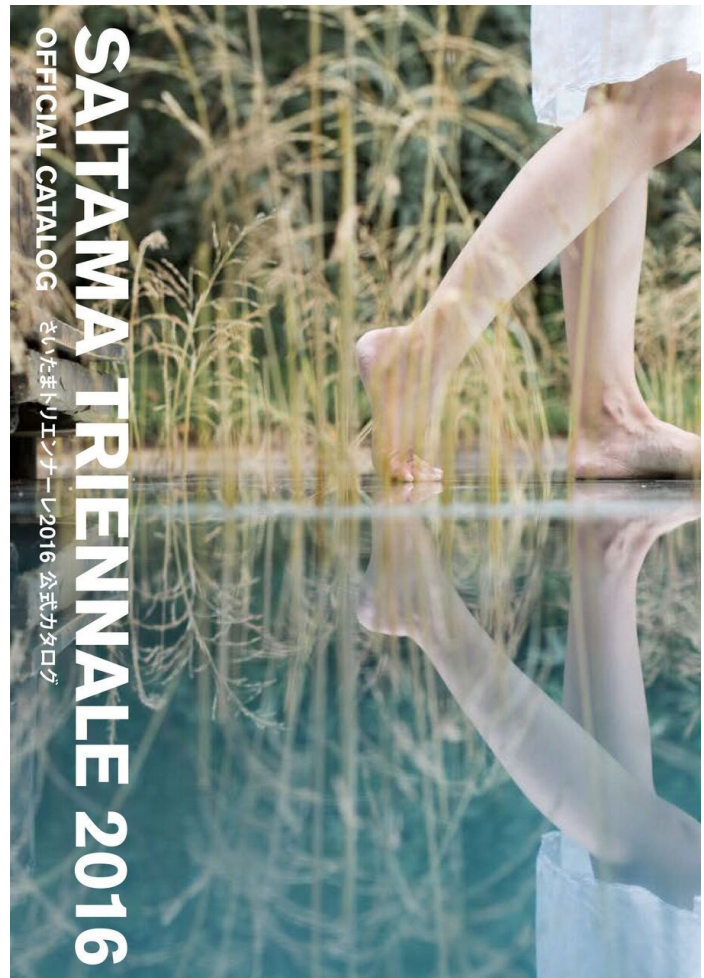
思い出に残ったイベント、
衝撃を受けたパフォーマンス、感動した作品な
ど、さまざまなことがあった
「さいたまトリエンナーレ2016」。

公式カタログは、
A4サイズ108ページのボリュームに加え
美しい写真満載で、見応え、読み応え十分の
一冊。
部数が限られています、ぜひこの機会にご購
入を！

[Amazonでのご購入はこちらから](#)

www.amazon.co.jp/dp/4802130465

その他、さいたま市内の書店、全国の主要書店の
ほか、さいたまトリエンナーレ実行委員会事務局
(さいたま市役所7階 文化振興課)にて
ご購入いただけます。



さいたまトリエンナーレ2016公式カタログ

価 格:税込2,000円

発売日:12月10日(土)

サイズ:A4(108ページ)

参加アーティスト一覧

秋山さやか (日本)	アイガルス・ビクシェ (ラトビア)	チェ・ジョンファ (韓国)
藤城光 (日本)	ダニエル・グエティン (スイス)	日比野克彦 (日本)
ホームベース・プロジェクト (NYC、ベルリン、エルサレム、さいたま) ※出身地ではなく開催地	磯辺行久 (日本)	日本相撲聞芸術作曲家協議会 JACSHA (鶴見幸代、野村誠、縦山智子) (日本)
川埜龍三 (日本)	オクイ・ララ (マレーシア)	ロングフィルム・シアター (日本)
アダム・マジャール (ハンガリー)	松田正隆＋遠藤幹大＋三上亮 (日本)	目 (日本)
向井山朋子 (日本)	長島確＋やじるしのチーム (日本)	新しい骨董 (山下陽光、下道基行、影山裕樹) (日本)
西尾美也 (日本)	野口里佳 (日本)	岡田利規 (日本)
大洲大作 (日本)	大友良英＋Asian Music Network (日本)	小沢剛 (日本)
ウィスット・ポンニミット (タイ)	ソ・ミンジョン (韓国)	サイタマ・ミューズ・フォーラム SMF (Saitama Muse Forum) (日本)
ダンカン・スピークマン＋ サラ・アンダーソン (イギリス)	鈴木桃子 (日本)	高田安規子＋政子 (日本)
多和田葉子 (日本)	マテイ・アンドラシュ・ ヴォグリンチッチ (スロヴェニア)	アピチャッポン・ ウィーラセタクン (タイ)
ユン・ハンソル (韓国)		

* 10カ国より34アーティストが参加／48アートプロジェクトの展示

【さいたまトリエンナーレ2016開催概要】

テーマ「未来の発見！」

127万もの人々が生活するさいたま市に、世界に開かれた創造と交流の現場をつくりだそうとする国際芸術祭。テーマは「未来の発見！」。アートを鑑賞するだけでなく、共につくる、参加する芸術祭です。土地の歴史やまちの構造を想起させる、市内のさまざまな場所が会場となります。国内外のアーティストたちの多様で多彩な想像力に触発されて、私たちはさまざまな未来を夢見ていく。日本を代表する生活都市から生まれる、想像力の祭典をお楽しみください。

さいたまトリエンナーレ2016 ディレクター 芹沢高志

会期： 2016年9月24日(土)～12月11日(日)[79日間]
※定休日=水曜(ただし11/23(水・祝)は開場、翌11/24(木)は休み)

主な開催エリア： 与野本町駅～大宮駅周辺
武蔵浦和駅～中浦和駅周辺
岩槻駅周辺

主催： さいたまトリエンナーレ実行委員会

ディレクター： 芹沢高志(P3 art and environment統括ディレクター)

各種記者発表資料は、
さいたまトリエンナーレ2016公式WEBサイト内の
「[プレス向け](#)」よりダウンロードいただけます。

■お問合せ先■

さいたまトリエンナーレ2016 広報担当(大久保・西山・鈴木・河西・森田)
〒330-0063 浦和区高砂2-8-9ナカギンザビル さいたまアートステーション
tel 048-711-8390(月～金11:00-18:00) / fax 048-824-5361

press@saitamatriennale.jp